

## 平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年7月30日

上場取引所 東

上場会社名 インヴァスト証券株式会社

コード番号 8709 URL <http://www.invast.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 川路 猛

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員

(氏名) 田村 信司

TEL 03-3595-0423

四半期報告書提出予定日 平成26年8月8日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第1四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		純営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	502	△65.9	502	△65.9	△513	—	△495	—	△9	—
26年3月期第1四半期	1,476	—	1,475	—	407	—	446	—	431	—

(注)包括利益 27年3月期第1四半期 △446百万円 (—%) 26年3月期第1四半期 818百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	△1.64	—
26年3月期第1四半期	69.84	68.73

(注)当社は平成26年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成26年3月期第1四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	96,336	—	11,652	—	12.1	—
26年3月期	97,515	—	13,239	—	13.6	—

(参考)自己資本 27年3月期第1四半期 11,624百万円 26年3月期 13,213百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	195.00	195.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	0.00	—	—	—

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成27年3月期(予想)配当金は、第2四半期末(中間)配当を無配といたしますが、期末配当は現時点において未定です。

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

当社の主力サービスである外国為替証拠金取引は、外国為替市場や株式市場等の市況、その他国内外の経済環境等に大きく左右される傾向にあり、業績予想が困難であるため、業績予想の開示は行っておりません。

その代替として、営業収益等の営業指標を月次概況として開示しております。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期1Q	6,411,400 株	26年3月期	6,411,400 株
② 期末自己株式数	27年3月期1Q	607,500 株	26年3月期	575,800 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期1Q	5,824,893 株	26年3月期1Q	6,176,956 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

平成27年3月期の期末日における配当予想額は現時点において未定であり、今後の業績等を勘案し見通しが立った時点で開示いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報等) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、4月は消費増税に伴う駆け込み需要の反動により一時的に減速感が見られたものの、5月以降は持ち直しの兆しが見られ、消費の下げ止まり感とともに消費増税に伴う経済対策が景気を下支えすることが期待されています。

国内では、円安によるコストの上昇や需給改善が消費者物価を押し上げこれが購買力の低下を一部で招いているものの、一方では良好な雇用情勢が所得環境の改善を促し、個人消費を支えることが期待されています。

外需の動向は、中国やASEAN諸国向けの輸出が後退しているものの、景気回復傾向がみられる先進国向けの輸出が堅調であり、緩やかな円安傾向とともに、その相乗効果が発揮される見通しです。

こうした環境の中、6月に行われた日銀金融政策決定会合では、国内景気の先行きについて、基調的には緩やかな回復が続くとして、前月の判断が維持されました。日本の異次元緩和の継続、高止まりしている公共投資、また、米国をはじめとする先進国の景気回復が日本の景気を後押しすることが期待されています。

外国為替市場は、ドル円相場が狭いレンジ内での取引となりました。米国の利上げ見通しが不透明な中、欧州圏では一般の銀行が欧州中央銀行に預託する際の金利をマイナス金利にするなど、各国が緩和策を継続しており、膠着状態が続きました。中でも6月のドル円相場は高値と安値の差が1.54円と2011年12月以来の狭いレンジとなりました。

株式市場は、米国の良好な経済指標に支えられた円安傾向や、6月上旬の少額投資非課税制度(NISA)の非課税枠拡大の検討の報道などにより5月中旬以降、日経平均は堅調に推移しました。

このような経済状況のもとで、当社グループの当第1四半期連結累計期間の営業収益は5億2百万円(前年同四半期比34.1%)、純営業収益は5億2百万円(同34.1%)となりました。

また、当第1四半期連結会計期間において、当社が保有する投資有価証券の一部売却を行ったことにより、5億25百万円の投資有価証券売却益を特別利益として計上しております。

こうして、販売費・一般管理費は全体で10億16百万円(同95.2%)、純営業収益から販売費・一般管理費を差し引いた営業損失は5億13百万円(前年同四半期は4億7百万円の営業利益)、経常損失は4億95百万円(前年同四半期は4億46百万円の経常利益)、四半期純損失は9百万円(前年同四半期は4億31百万円の四半期純利益)となりました。

なお、当社単体での営業損失は3億97百万円(前年同四半期は4億17百万円の営業利益)、経常損失は3億75百万円(前年同四半期は4億57百万円の経常利益)、四半期純利益は1億9百万円(同24.9%)となりました。

セグメントの業績概況は次のとおりであります。各セグメントにおける純営業収益は、取引所清算手数料等の取引関係費と相殺表示しております。詳細は、「注記事項(セグメント情報等)」をご参照ください。

セグメント名称		事業の内容	会社
報告 セグメント	取引所F X取引	「くりっく365」	インヴァスト証券㈱
	店頭F X取引	「FX24」、「シストレ24」、 「トライオート」	インヴァスト証券㈱
	海外金融事業	店頭F X、店頭C F D	Invast Financial Services Pty Ltd.
その他		「くりっく株365」	インヴァスト証券㈱

## ① 取引所F X取引

取引所F X取引は、東京金融取引所におけるF X取引サービス「くりっく365」の提供を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、市況の変動が乏しく、売買を手控える動きがみられたこと等により、前年同四半期と比べ出来高が大幅に減少しました。

そのため、取引所F X取引による純営業収益は1億52百万円(前年同四半期比34.9%)となり、セグメント損失は70百万円(前年同四半期は2億51百万円のセグメント利益)となりました。

## ② 店頭F X取引

店頭F X取引は、「F X24」、「シストレ24」及び「トライオート」の提供を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、3月よりサービスを開始している相場の方向はトレーダーが決め、後はオートパイロットが自動売買をするという新しいF Xサービス「トライオート」の出来高等が順調に推移し、総口座数はサービス開始後、約2ヶ月半で1万件を突破いたしました。

その一方で、「F X24」及び「シストレ24」は、取引所F X取引と同様に市況の影響を受け、前年同四半期と比べて出来高が伸び悩みました。

こうして、店頭F X取引(F X24・シストレ24・トライオート)による純営業収益は2億70百万円(前年同四半期比30.6%)となり、セグメント損失は3億26百万円(前年同四半期は1億38百万円のセグメント利益)となりました。

## ③ 海外金融事業

海外金融事業においては、オーストラリアの子会社Invast Financial Services Pty Ltd.(以下「IFS」といいます。)が店頭F X取引及び店頭C F D取引を行っております。

昨年2月に設立したIFSの決算日は12月31日となっているため、連結決算への数値の反映は発生から3ヶ月後となります。そのため、当第1四半期連結累計期間においては、IFSの平成26年1月から3月までの実績を反映しております。

IFSは、世界的に支持する投資家が多いMT4システムとプロの投資家に人気があるcTraderを中心とした店頭F X取引を提供しているほか、店頭C F D取引として、MT4のシステムを通じたメタルや株価指数などのサービスを提供しております。

IFSは昨年7月下旬より営業を開始しておりますが、現在の顧客層は、東南アジアではシンガポールやマレーシア、ユーロ圏ではフランスやドイツなど、多岐に渡ります。

預り証拠金残高は、平成26年3月末時点で858万豪ドル、6月末時点で964万豪ドルとなっております。

こうして、海外金融事業の純営業収益は26百万円(前年同四半期は計上なし)となりましたが、人員の増強や今後の成長戦略に必要な先行投資として、1億42百万円の販売費・一般管理費を計上した結果、セグメント損失は1億15百万円(前年同四半期は計上なし)となりました。

## ④ その他

その他の事業「くりっく株365」による純営業収益は6百万円(前年同四半期比20.4%)となり、セグメント損失は1百万円(前年同四半期は17百万円のセグメント利益)となりました。

主要な収益・費用等の状況は次のとおりであります。

## ① 受入手数料

当第1四半期連結累計期間の受入手数料の合計は1億12百万円(前年同四半期比19.6%)となりました。内訳は以下のとおりであります。

・委託手数料	5百万円(同14.9%)
・取引所為替証拠金取引に係る受取手数料	1億1百万円(同18.8%)
・投資顧問料	5百万円(前年同四半期は計上なし)
・その他の受入手数料	0百万円(同2.2%)

## ② トレーディング損益

当第1四半期連結累計期間におけるトレーディング損益は、2億95百万円(前年同四半期比33.1%)の利益となりました。これは店頭F X取引等によるものであります。

## ③ 金融収支

当第1四半期連結累計期間における金融収益は、5百万円(前年同四半期比130.3%)となりました。主な発生要因は預金利息によるものであります。

## ④ 販売費・一般管理費

当第1四半期連結累計期間における販売費・一般管理費は、10億16百万円（前年同四半期比95.2%）となりました。主な内訳は以下のとおりであります。

・取引関係費	4億2百万円（同97.1%）
・人件費	2億11百万円（同92.0%）
・不動産関係費	2億45百万円（同84.7%）
・事務費	10百万円（同80.4%）
・減価償却費	1億11百万円（同121.7%）
・租税公課	24百万円（同205.5%）
・その他	10百万円（同62.1%）

## ⑤ 営業外収益

当第1四半期連結累計期間においては21百万円の営業外収益を計上しており、その内訳は以下のとおりであります。

・受取配当金	17百万円
・為替差益	2百万円
・その他	0百万円

## ⑥ 営業外費用

当第1四半期連結累計期間においては2百万円の営業外費用を計上しており、その内訳は以下のとおりであります。

・自己株式取得費用	0百万円
・株式公開費用	0百万円
・その他	1百万円

## ⑦ 特別利益

当第1四半期連結累計期間においては5億45百万円の特別利益を計上しており、その主な内訳は以下のとおりであります。

・投資有価証券売却益	5億25百万円
・金融商品取引責任準備金戻入	19百万円

## ⑧ 特別損失

当第1四半期連結累計期間においては3百万円の特別損失を計上しており、その内訳は以下のとおりであります。

・投資有価証券売却損	3百万円
------------	------

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して11億78百万円減少し963億36百万円となりました。

流動資産は18億78百万円減少し925億40百万円となりました。

流動資産の主な減少項目は、配当金の支払いや投資有価証券の取得による現預金の減少11億21百万円のほか、顧客分別金信託の減少10億円、短期差入保証金の減少19億87百万円であります。

一方、増加項目は、外為取引未収入金の増加17億71百万円、顧客区分管理信託の増加2億88百万円でありま

す。また、固定資産は前連結会計年度末に比べ6億99百万円増加し、37億95百万円となりました。

これは投資有価証券の取得等により投資その他の資産が7億20百万円増加した一方で、ソフトウェア等の事業用資産について1億11百万円の減価償却費を計上したことによるものであります。

## (負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は846億84百万円となり、前連結会計年度末に比べ、4億8百万円増加しました。流動負債は、5億73百万円増加し842億90百万円となりました。

主な増加項目は、外為取引未払金の増加17億38百万円であります。一方、主な減少項目は、受入保証金の減少5億66百万円、法人税等の納付による未払法人税等の減少3億52百万円、賞与支給により役員賞与引当金、賞与引当金がそれぞれ、42百万円、49百万円減少しております。

固定負債は主に繰延税金負債が1億99百万円減少したことにより、前連結会計年度末に比べ1億44百万円減少し3億64百万円となりました。

特別法上の準備金においては、金融商品取引責任準備金の洗い替えによる戻入を行ったことにより19百万円減少し、29百万円となりました。

## (純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は116億52百万円となり、前連結会計年度末と比較して15億87百万円減少しました。

主な減少項目は配当金の支払いにより利益剰余金が11億37百万円減少したことに加え、投資有価証券の評価差額金の減少により、その他の包括利益累計額が4億24百万円減少したことあります。

この結果、自己資本比率は12.1%（前連結会計年度末は13.6%）となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの主力サービスである外国為替証拠金取引は、外国為替市場や株式市場等の市況、その他国内外の経済環境等に大きく左右される傾向にあり業績予想が困難であるため、業績予想の開示は行っておりません。

その代替として、営業収益等の営業指標を月次概況として開示しております。

## 2. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金・預金	2,540	1,419
預託金	17,226	15,964
顧客分別金信託	3,005	2,005
顧客区分管理信託	13,634	13,923
その他の預託金	587	36
短期差入保証金	65,706	63,719
外為取引未収入金	8,287	10,058
繰延税金資産	183	161
その他	473	1,217
貸倒引当金	△0	△0
流動資産計	94,418	92,540
固定資産		
有形固定資産	189	205
無形固定資産	911	874
投資その他の資産	1,995	2,716
投資有価証券	1,733	2,449
その他	262	266
貸倒引当金	△0	△0
固定資産計	3,096	3,795
資産合計	97,515	96,336
<b>負債の部</b>		
流動負債		
受入保証金	75,395	74,828
外為取引未払金	7,203	8,942
未払法人税等	359	7
役員賞与引当金	42	-
賞与引当金	54	4
その他	662	506
流動負債計	83,717	84,290
固定負債		
繰延税金負債	335	135
その他	174	229
固定負債計	509	364
特別法上の準備金		
金融商品取引責任準備金	48	29
特別法上の準備金計	48	29
負債合計	84,275	84,684

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,965	5,965
資本剰余金	2,806	2,806
利益剰余金	4,474	3,343
自己株式	△722	△755
株主資本合計	12,523	11,359
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	702	278
為替換算調整勘定	△12	△12
その他の包括利益累計額合計	689	265
新株予約権	26	27
純資産合計	13,239	11,652
負債・純資産合計	97,515	96,336

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
営業収益		
受入手数料	577	112
委託手数料	37	5
取引所為替証拠金取引に係る受取手数料	538	101
投資顧問料	-	5
その他の受入手数料	2	0
トレーディング損益	894	295
金融収益	3	5
その他の営業収益	0	89
営業収益計	1,476	502
金融費用	0	-
純営業収益	1,475	502
販売費・一般管理費		
取引関係費	415	402
人件費	229	211
不動産関係費	289	245
事務費	13	10
減価償却費	91	111
租税公課	12	24
その他	16	10
販売費・一般管理費計	1,067	1,016
営業利益又は営業損失(△)	407	△513
営業外収益		
受取配当金	32	17
為替差益	-	2
その他	8	0
営業外収益計	41	21
営業外費用		
自己株式取得費用	1	0
株式公開費用	-	0
為替差損	0	-
その他	0	1
営業外費用計	1	2
経常利益又は経常損失(△)	446	△495
特別利益		
投資有価証券売却益	-	525
金融商品取引責任準備金戻入	24	19
特別利益計	24	545
特別損失		
投資有価証券売却損	-	3
特別損失計	-	3
税金等調整前四半期純利益	471	47
法人税、住民税及び事業税	39	0
法人税等調整額	△0	56
法人税等合計	39	56
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	431	△9
四半期純利益又は四半期純損失(△)	431	△9

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	431	△9
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	387	△424
為替換算調整勘定	△0	△12
その他の包括利益合計	387	△437
四半期包括利益	818	△446
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	818	△446

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成25年12月13日開催の取締役会決議及び平成26年3月7日開催の取締役会決議（取得枠の拡大決議）に基づき、自己株式31,700株の取得を行いました。

この結果、当第1四半期連結累計期間において自己株式が32百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末において自己株式が755百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	取引所F X取引	店頭F X取引	計				
純営業収益	435	882	1,318	29	1,348	127	1,475
セグメント利益	251	138	390	17	407	—	407

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、差金決済取引（証券・商品C F D）、取引所株価指数証拠金取引（くりっく株365）事業を含んでおります。
2. 純営業収益の調整額127百万円は報告セグメント事業における取引関係費（取引所清算手数料等）であり、それぞれのセグメントの純営業収益は当該調整額と相殺しております。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書上の営業利益と一致しておりますので、調整額を計上しておりません。したがって、セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益を表しております。

II 当第1四半期連結累計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	取引所F X 取引	店頭F X 取引	海外金融 事業	計				
純営業収益	152	270	26	448	6	454	48	502
セグメント損失 (△)	△70	△326	△115	△512	△1	△513	—	△513

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、取引所株価指数証拠金取引（くりっく株365）事業を含んでおります。
2. 純営業収益の調整額48百万円は報告セグメント事業における取引関係費（取引所清算手数料等）であり、それぞれのセグメントの純営業収益は当該調整額と相殺しております。
3. セグメント損失は、四半期連結損益計算書上の営業損失と一致しておりますので、調整額を計上しておりません。したがって、セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失を表しております。